

1. ピアノ独奏

寺見 香織

ピアノ協奏曲第7番 ト短調 BWV1058

J.S.バッハ(1685～1750)

1738年に作曲されたこの曲は、もともと1720年頃に作曲された3楽章形式のヴァイオリン協奏曲第1番BWV1041を、バッハ自身が編曲したものである。第1楽章はアレグロ。適度なアクセントが曲に推進力を持たせつつ、軽やかでどこことなく上品な雰囲気醸し出している。第2楽章はアンダンテ。ゆったりしてアリアを思わせるような旋律。第3楽章はアレグロアッサイ。快活な舞曲のリズムを持つリズムカルな曲である。

2. ピアノ独奏

藤井 三恵

ピアノソナタ第21番 変ロ長調 D960

F.シューベルト(1797～1828)

第3、4楽章

死の2か月前に書かれたピアノソナタ3部作の最後の作品。以前から体調不調に悩み、この頃にはおそらく死を覚悟していただろう。第1楽章は語りかけるように始まるが、この世とあの世を行き来しているようだ。そして深い悲しみの中に一抹の光がさすような第2楽章。第3楽章は一転して明るい曲調となり、第4楽章では自らの昇天の様子を描写しているように感じられる。3部作のソナタは、怒り、恐怖、諦めなど様々な感情が揺らぐ中で作曲されただろうが、この最後のソナタにはそれらすべてを乗り越えた悟りの境地が感じられる。今日はその中から第3、4楽章を演奏させていただく。

3. ピアノ独奏

知念 夕紀子

バラード第3番 変イ長調 Op.47

F.ショパン(1810～1849)

ショパンは全4曲のバラードを残したが、この第3番は彼が6年間同棲生活を送った恋人ジョルジュ・サンド(1804～1876)との関係性も良く、幸福な時期に書かれた作品で、1841年夏、サンドの別荘があるフランスのノアンで完成した。全体的に自由な構成で静かに語りかけるような主題と、シンコペーションが特徴の舞踏的主題が後半にかけて華やかに変容してゆく作品。4曲中、唯一明るく和やかな雰囲気包まれ、温かい魅力に満ちた曲である。

4. ピアノ独奏

大森 静香

バラード第4番 ヘ短調 Op.52

F.ショパン(1810～1849)

ショパンがピアノ芸術の発展に大きく貢献したものの1つとして4つのバラードが挙げられる。バラードは元々声楽曲の一種を表す名称で、当時もまだその伝統は残っていたが、ピアノ曲にバラードを最初に用いたのがショパンである。特定の形式や描写対象はないが、ソナタのように壮大な構えを持ちつつ様々な曲想が綴られている。第4番はジョルジュ・サンドとの関係性も良好で公私共に円熟を迎えた時期の作品である。

～ 休憩 ～

5. ピアノ独奏

近藤 文

スケルツォ第4番 ホ長調 Op.54

F.ショパン(1810～1849)

ショパンと恋人ジョルジュ・サンドは、1841年から46年まで、毎年初夏から秋にかけて、フランス中部ノアンにあるサンドの別荘で過ごし、冬はパリに戻るという生活をしてきた。パリの華やかな社交界とは異なり、気候が良く静かな環境が保たれたノアンは、健康を回復し創造力を発揮するのに最適な場であったようだ。1842年は、2月にポーランドの恩師が、4月には親友が亡くなり、心身共に沈み込んでいたショパンであったが、ノアンで元気を取り戻し、スケルツォ第4番を完成させた。空高く突き抜けるような幸福感の向こう側に、厳しさが透けて見えるような曲想は、次第に悪化する胸の病の予兆なのかもしれない。

6. ソプラノ独唱

ソプラノ 康 瑛

ピアノ 宮北 昌子

歌劇『運命の力』より “天使の中の聖处女”

G.ヴェルディ(1813～1901)

歌劇『イル・トロヴァトーレ』より

“恋はバラ色の翼に乗って”

オペラ王、ヴェルディの中期の傑作より、『運命の力(1863年初演)』第2幕、山深い修道院で聖母への祈りを捧げる。本来は、合唱と共に演奏される。

『イル・トロヴァトーレ(1853年初演)』より、“呪い、出生の秘密、三角関係”の複雑に絡み合ったドラマチックな物語の終盤、第4幕冒頭で囚われの身となった恋人を助けるため懊悩しつつ彼への想いを歌う。

7. ピアノ独奏

平田 道子

『超絶技巧練習曲』S.139より

F.リスト(1811～1886)

第11曲 「夕べの調べ」 変ニ長調

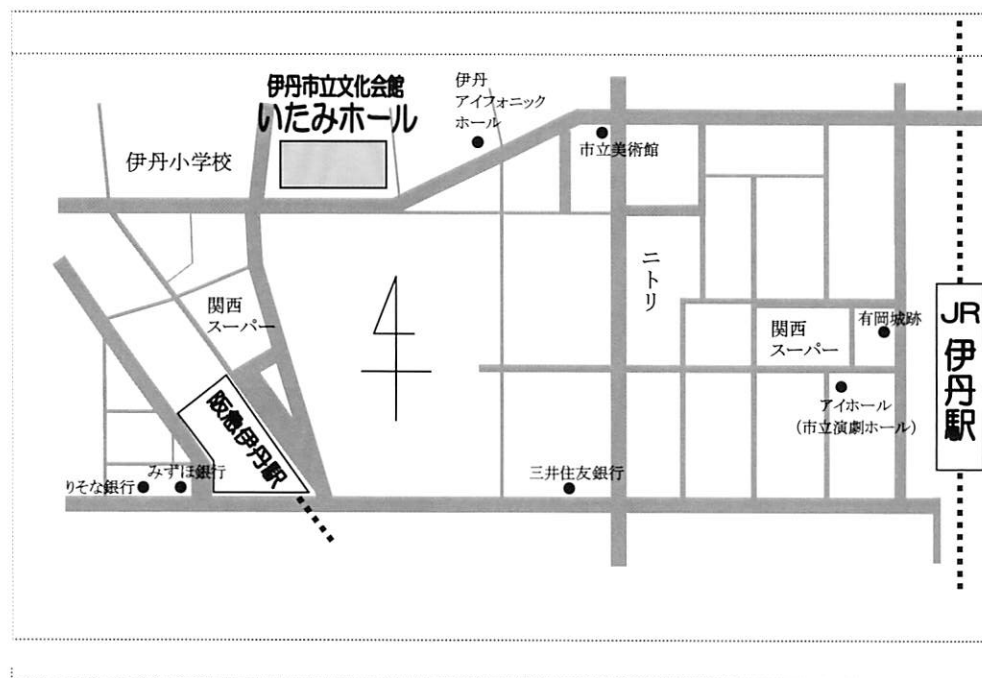
第5曲 「鬼火」 変ロ長調

第4曲 「マゼッパ」 ニ短調

リストの超絶技巧練習曲は、26年間に及ぶ改作を経て、41歳の1852年に出版された。b系の同主長短調を網羅する12曲から成る。アルペジオの練習曲「夕べの調べ」は、ハーブのような和音が散りばめられ、鐘が鳴り響くたそがれ時の情緒が醸し出されている。二重トリルが演奏至難な「鬼火」は、重力から解放たれて浮遊するような音の連なりが、無数の火の玉が乱舞する光景を思わせる。オクターブの練習曲「マゼッパ」は、ウクライナの英雄マゼッパ(1639～1709)を謳ったV.ユゴー(1802～1885)の叙事詩に基づく。雷鳴のどどろく中を駆け抜け苦闘する物語が勇壮に展開される。

第170回

ホームコンサート



いたみホール 兵庫県伊丹市宮ノ前1丁目1番3号
TEL : 072-778-8788

阪急神戸線 伊丹駅より北へ徒歩約6分
JR宝塚線 伊丹駅より西へ徒歩約12分

次回「第171回ホームコンサート」予告

と き 2023年11月10日(金) 午後6時30分開演(予定)
ところ 伊丹市立文化会館「いたみホール」
(B1F 多目的ホール)

2023年6月25日(日)

開場:午後1時30分 開演:午後2時

伊丹市立文化会館「いたみホール」

(6F 中ホール)